

## ＜バイオセラピー学科＞（認定課程：中一種免（理科））

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	語学、生物学、化学、物理といった教養力を培うとともに、生物学を基盤とした野生動物学、植物共生学等の科目から生物多様性、自然環境保全、人の生活の質の改善や健康の向上を学ぶための基礎知識を習得し、教員としての基盤となる考えを身につける。
	後期	引き続き、生物保全や野生動物生態学、伴侶動物学によって幅広い生物活用の原理と環境資源と社会との関連について学び、理科教員としての教育的観点の構築を行う。
2年次	前期	生命活動を分子レベルで捉え、環境を題材とした科学現象を論理的に考える態度とその手法を身につける。教職の基盤を理解し、将来展望について構想する。
	後期	生物学実験や化学実験、また植物生理生態学、生物化学等の教科を通じて、生命を生理・分子レベルで捉える重要性を理解するとともに基礎技術を習得し、生物多様性、自然環境保全、人の生活の質の改善や健康の向上についてその具体的研究手法を身につける。
3年次	前期	生命科学の技術的応用を考えるための研究手法、教育的観点における生物を含めた環境に関する指導方法を身につける。
	後期	生命体のもつ人の健康効果や環境ならびに人社会への応用に関し、論理的に表現する手段を習得し、教育への活用について考え、教育実習への態度を確立する。
4年次	前期	農学の論理体系を基に生物多様性、自然環境保全、人の生活の質の改善や健康の向上に関するテーマを具体的に定め、実験・調査を進める。教育実習を通して、大学で構築した知識と技術について実地の指導から、教師としての資質を確認する。
	後期	学び得た専門的領域の知識、研究について総括し、様々な諸問題に対する自身の問題解決能力を確認する。バイオセラピー学的視点によって生物多様性、自然環境保全、人の生活の質の改善や健康の向上に対する生物活用の概念を教育の現場で活かす方法を考え、教師としての資質と態度を確立する。